

ジャックと豆の木

大分大学教育学部附属幼稚園（文責/園長 石川照代）



夏は「まわす」です

ある日のこと。3歳さんのお部屋に行くとき、それは楽しそうに遊びの真ん中！なんとその日は、新聞紙を細かくちぎったものが部屋中に散らばって、新聞紙を両手に握らんと、思い切り上に向けて投げました。はらはらはら、と舞うように落ちていく新聞紙。実はちょっと意外でした。新聞紙なのに、きれいな「感覚遊び」がとてまです。五感を刺激し、楽しい！気持ちいい！面白いです。が、必要です。この凄まじい散らかりようにも担任の先生は涼しい顔。一体どうやって片付けるのでしょか？補助の先生に後で片付けてもらおうかな？「さあ、それはちよつとおかしいですね。」うか？「あ、今日は何色の袋に入れてお片づけしようかな？」今日は何色の袋に入れてお片づけしようかな？「あ、今日は何色の袋に入れてお片づけしようかな？」今日は何色の袋に入れてお片づけしようかな？



スイカを食べられちゃった(涙) さあ、どうする？年中のみんな!

こんなに見事なスイカの赤ちゃん（写真）ができたのに！3連休明けて来て見ると、ぱっくり割られ、きれいに食べられたスイカの皮が転がっていた。年中の子どもたちは、ショック&ガッカリで大騒ぎ！「何が食べたのかな？」「これからどうしたらいいんだろう？」みんなで頭をひねった。園でも目にするカラスなのか、近辺に最近出没するらしいサルなのか？とにかく何とかしなければ！

子どもたちは、「ぼくたちの得意な、広告の棒を作ったスイカの周りに刺そう」などと、アイディアも沢山出したらしい。・・・が、子どもたちが最後に出した結論は、「やっぱり、為家さんをお願いしよう！」だったそう。



先生たちは苦笑いしながらも「そうだね〜！」と受け入れ、一緒に行こうとしたという。

元気に楽しい夏休みを!



あつという間の一学期でした。保護者の皆様方に支えられて、子どもたちも大きな事故やケガもなく過ごすことができました。心より感謝申し上げます。

今年も、まずは職員一人一人の保育力を向上させ、保育のあり方を「保育者の後ろ姿」で問いかけていくことが大事と考え、日々の保育に精進すると共に、研究にも全力投球してきました。子どもたちに学び、子どもたちの成長に勇気をもらうことのできる幸せを噛みしめながら、一学期を閉じます。

子どもにとって、夏休みが素敵な思い出となりますよう、体調管理や安全面の配慮を、くれぐれもお願ひします。9月2日の登園時、お互いに元気な笑顔で挨拶ができたらいなと思っております。